駒沢大学研究紀要通巻第十七号正誤表

頁	行	正	誤
		The Constitution of Japan.	By S. Fujii.
目次分	一〇	The Historical Survey	The Historical Survey
		瑜伽唯識思想大系	保坂玉泉
二下	一一	華麗過を受けた。荘厳	華麗過を受けた荘厳
二下	八	思い半に過ぐる	思中半に過ぐる
四下	七	法幢。	法幢
五上	七	未。だ	未だ
六下	六	余。が	於
六上	一一	究。の	の
		正法眼蔵における公案解説	梅林皆堂
一〇下	一一	直指人心。見性成佛	直指人心是性成佛
一一上	九	思案付慶。	影響付慶
		ミリンダ問経説について	水野弘元
三一下	七	manasikāra	manasikara
三三上	七	(14。)	(41。)
三五上	七	Lakkhaṇa-	Lakkhana-
四五下一一		cittā-sādhāraṇa	citta-sadharana
四七下	八	蟹。又	蟹又
四七下一一		Sītā。	Sita
四九上一九		Bhārukacchaka	Bharukacchaka
四九上二二		Sovira	Sovira
五一上一〇		三八七。憂熊	三八七憂熊
五二上一九		Divyāvadāna	Divyavadana
五四上二二		Dīpavihāravāsi	Dīpaviharavasi
五四下	二	A.D.	AP.
五四下	三	Abhidhammika	Abhidhammika
五五下一〇		後一世紀。	後一世紀
		羅漢教学と道元禅の鼎談	光地英学
五八下一八		「観念法門」	「観念法門」
六二下一〇		現生人證	現生人證
六六下一一		便同瀰動。	便同瀰動
七〇上一四		住。相廻同	住相廻同
七七下一二		生かさ。れなくては	生かされなくては
八〇上一六		自愛。用三昧	自愛用三昧
八〇下	八	之のがあるど。	之のがある
八二上	六	望月信亨。博士	望月信亨博士
八二下	四	「往。生礼讃」	「往生礼讃」
八四上一四		増永霊鳳。	増永霊鳳

頁	行	正	誤
		唐元禅師の相続観	鏡島元隆
八五上一一		引用。論	引用論
八五下	二	根拠となるのは何。	根拠となるのは何人
八六下一二		排。遮	排遮
八六下一六		排。遮。排遮	排遮。排遮
九一下一一		阿修羅。繋飛羅	阿修羅繋和羅
九三下一九		北。漸終。化得人	北漸終化得人
		正法眼蔵佛性の総研究序説	酒井得元
九九下一三		言。語。見。聞。覚。者如実。知。見。	言語見聞覚者如実知見
		無。有。所。成能成自性	無有所成能成自性
一〇八下	八	故にこれは。仏祖より	故にこれは仏祖より
		愛和尚と九十六巻正法眼蔵	永久岳水
一一一上	三	著述。	著述
一一二上	八	永平寺に於て	永平寺於て
一一三下	八	闕。	闕
一一七上	六	開。全本。正法眼蔵	開全。正法眼蔵
一一七上	七	厳。	厳
一一七上	九	厳。	厳
一一七下一〇		正。法眼蔵	正。眼蔵
一一七上一一		寛厳。德厳。	寛厳。德厳
一一二下一六		愛。固	愛固
一一二下二二		未。後	未後
一二九上二三		正。法眼蔵	正眼蔵
一二九下一五		九のはり	九ずなり
一三〇上	一	出。子	出子
一三〇下	六	可、癸、	可、癸、
		「アワヘスの誤解」研究説	中島蘭禰
一四八上二五		鑿。覚者	鑿覚者
一四八上二二		幾。裏、	幾裏
一五六下一一		戯。	戯
一六四下二二		裏。	裏
一六四下二三		「性格遍。」	「性格遍」
		富仏主義についての覚え書	岸本昌雄
一八〇上	六	ミ。ト又	ミト又
一八二下	六	Faktizi。	Faktizi
一八二下	七	tät	tat
一八六上	一	不れだ。鈍に	不れだ鈍に
		空と法華の問題	田野貞純

頁	行	正	誤
二二三下二		（原註A(イ)・2）。	（原註A(ロ)・2）。
二二四下六		(一)。(2) 2	(1)。(2) 2
二二四下九		（(四)。(四)。(四)。	（(4)。(4)。(4)。
二二四下一〇		（(四)。(四)。(四)。	（(4)。(4)。(4)。
二二四下一四		（(四)。(四)。(四)。	（(4)。(4)。(4)。
二二五下五		ドロ・ポッカイ	ドロ・ポッカイ
二二九下五		切。ヒ・ショー	ヒ。ヒ・ショー
二二九下五		山。ヨ。ッ・コ。	ヒ。ヨ。ッ・コ。
二三〇上三		三。ヨ・ー・ワ。慰。ヨ。ー・ワ。	三。ヨ・ー・ワ。慰。
二三〇上三		ー。ベ。	ー。ベ。
二三〇下九		(putting together。	(putting together)。
二三〇下一二		この。文言	こう。文言
二三〇下一五		「ワタシ」。	「ワタシ」。
二三三下二		ゴ。ゴ。ゴ。タ	ゴ。ゴ。ゴ。タ
二三三下三		ゴ。ゴ。ゴ。エム	ゴ。ゴ。ゴ。エム
二三三下一四		形。質。詞	容。詞
二三五下一六		神奈川県。刑。文。資料	神奈川県。刑。文。資料
		鎌倉初期説の稀薄拡大に関する諸問題　　楜井正信	
二三七上四		遂。承	承
二四二上三		佛教。線	佛教線
二四五下一〇		別。宅	別。宅
二四五下二〇		小。北	後。北
二四六上一三		憑。縛。	動。憑。
二四六下八		岸。	昌。
二四六下八		隧。裏。	裏。隧。
		潤宗教思想の起源と初祖　　渡邊茂	
二五三上一八		神。的進展	解。的進展
二五三下二		Heidelberger Universität,	Heideeberger Universität,
二五七上一		あいだにおいてのみ	あいだにおいてのみ
二五七上一九		Kirchengeschichte	Kirchengeschite
二五八上二		die Freiheit	dre Freiheit
二六四上五		みいだした。	みいだした。
		日本禅における憂葉の地位　　笠森傳繁	
二六九下一八		山田雄三	山田雄三
二七〇補註表		全憂葉に対する憂林葉	全憂葉に対する憂葉
二七一上八		六。六。蔭	六八。蔭
二七五下二三		前。表	前々表
二七六上三		前。表	前々表
二七七補九表		B。A	B A
二七七補一〇表		B。A	B A

頁	行	正	誤
二八〇下二		第。運動	第三次。運動
二八二補三表		移動。	移動。
二八四補一〇表		100。	140。
二八五下二		(三)。100。	(三)。140。
		若手の顧望　　吉沢文男	
二九四下六		配給。	配。
二九五下六		文学の歴史。	社会の歴史。
		社会保障と社会保険　　森　凱雄	
三一〇下一九		社会保障。と副されて	社会保障。と区別されて
		日本の補助金　　西村紀三郎	
三四三補註五		*389,149	*89,149
		サンスクリット文法（三）（上）の引用　　崎直道	
(13)	16	"Praudhamanoramā"	"Praudhamanoramā"
(19)	7	"Siddhāntakaumudī"	"Siddhāntakaumudī"
(22)	4	Astādhyāyī	Astadhyāyī
(25)	11	a) a, i, u, ṛ,	a) a, i, u, ṛ-
(26)	11	'ai'(=a+i)	'ai'(=a+u)
(27)	17	(nāsikā)	(nāsikā)
(27)	15	⑨Mahā-praṇa	⑨Mahā-praṇa
(28)	2	ṭ, ḍ, ṇ;	ṭ, ḍ, ṇ;
(28)	6	アルファベットにおいて〕	アルファベットにおいて〔
(28)	24	a, i, u, ṛ, ḷ,	a, i, u, ṛ, ḷ,
		Dōgen's Idea of Buddha-nature. By Reiho Masunaga.	
(3)	23	humanity	hnmanity
(3)	34	against	agains
(4)	1	Buddha-nature	Buddha-nature
(4)	19	productive	prodtctive
(4)	23	from	form
(4)	32	such	sush
(8)	23	form	forme
(9)	6	Buddha-nature	Budha-nature
(10)	10	So to	So the
(10)	16	Buddha"	Buddha-"
(11)	12	practice	practices
(12)	21	relations	rerations
(14)	4	Zen	Zne
(14)	25	gradual	granual
(15)	24	expressing	exyressing
(15)	30	"This mind	"; This mind
(16)	25	and	ond